

造形表現における色彩イメージに関する研究（2）

小 江 和 樹

(2007年10月23日 受理)

A Study of Color Image in Art Expression (2)

OE Kazuki

要 約

情緒イメージの代表的なものとしてあげられる「楽しいーさびしい」、「うれしいー悲しい」、「陽気なー陰気な」、「さわやかなーうっとうしい」、「心地よいー不愉快な」の5つのイメージ対に関して、選択される色彩の傾向を調査し、それぞれのイメージにおいて選択される色彩、色相及びトーンの分布状況から、色相やトーンへの依存度とその特徴を明らかにした。その結果、色彩認知イメージの場合とは異なる傾向を見出すことができた。これは、造形表現において色彩イメージの効果的な活用方法を探る上で、重要な要素であると考えられる。

キーワード：造形表現、情緒イメージ、色相、明度、彩度、トーン

1. はじめに

色彩には人の感覚や感情を動かす力があり、この力によって引き起こされる色のイメージや連想は、色彩表現を行う様々な場面で活用されている。そして、この色彩イメージは、生活経験や環境、文化の違いによって異なってくるものではあるが、大多数の人々に対して共通する色彩イメージも存在している。

色彩イメージを分類すると、色彩認知・情緒のイメージと生活を表すイメージに分けられる。前稿では色彩認知イメージに着目し、その代表的なイメージについて選択される色彩の傾向を明らかにした。そこで、本稿では情緒イメージに着目し、その代表的なものとして「楽しいーさびしい」、「うれしいー悲しい」、「陽気なー陰気な」、「さわやかなーうっとうしい」、「心地よいー不愉快な」の5つのイメージ対、合計10種類のイメージを取り上げ、それぞれのイメージにおいて選択される色彩の傾向を明らかにし、前稿での色彩認知イメージの考察結果とともに、造形表現における色彩イメージの効果的な活用方法についての糸口を探りたい。

2. 研究方法

(1) 試料

調査に使用した試料は、前稿と同様の(財)日本色彩研究所監修の配色カード158aで、その内容は次の通りである。

【有彩色】

トーン名称	記号	色相番号	色数
ビビッド	v	1～24	24
ブライツ	b	2～24 (偶数番号のみ)	12
ディーブ	dp	2～24 (偶数番号のみ)	12
ライト	lt	2～24 (偶数番号のみ)	12
ソフト	sf	2～24 (偶数番号のみ)	12
ダル	d	2～24 (偶数番号のみ)	12
ダーク	dk	2～24 (偶数番号のみ)	12
ペール	p	2～24 (偶数番号のみ)	12
ライトグレイッシュ	ltg	2～24 (偶数番号のみ)	12
グレイッシュ	g	2～24 (偶数番号のみ)	12
ダークグレイッシュ	dkg	2～24 (偶数番号のみ)	12
その他：2:R-4.5-1s, 2:R-4.5-3s, 2:R-4.5-5s, 2:R-4.5-7s, 2:R-4.5-9s			

【無彩色】

トーン名称	記号
ホワイト	W
ライトグレイ	Gy-8.5
ライトグレイ	Gy-7.5
メディウムグレイ	Gy-6.5
メディウムグレイ	Gy-5.5
メディウムグレイ	Gy-4.5
ダークグレイ	Gy-3.5
ダークグレイ	Gy-2.5
ブラック	Bk

(2) 被験者

被験者は鹿児島大学教育学部美術専修学生32名

(3) 手続き及び分析方法

被験者に配色カード貼付用紙を配付し、試料の配色カード158aの中から、それぞれのイメージに該当すると思われる色彩を選択し、用紙に貼り付けていく方法をとった。

そして、選択された色彩について、各イメージごとに集計し、その傾向と特徴を読み取り考察していく。

3. 「楽しいーさびしい」についての結果と考察

(1) 「楽しい」

①選択色彩 : ビビッド8 (25.0%), ブライツ2 (12.5%), ビビッド5 (9.4%), ビビッド6 (9.4%)

②色相について

分布状況 : 2～10, 24

最大色相 : 8 (37.5%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライツ, ライト, ペール

最大トーン: ビビッド (53.1%)

色相は、赤、橙、黄、黄緑に分布し、色相番号8は特に高い値 (37.5%) を示している。またトーンは、主にビビッド、ブライツ、ライト、ペールの明清色調に分布し、全体の53.1%がビビッドに集中している。これらの結果から、「楽しい」からイメージされる色彩については、色相は橙から黄で、トーンは明清色調、そして彩度が高く鮮やかな色が中心である。このイメージは、色相とトーンに依存し、特に色相への依存度が高いようである。

(2) 「さびしい」

①選択色彩 : ライトグレイッシュ20 (9.4%), ライトグレイッシュ16 (6.3%), ペール20 (6.3%), グレイッシュ20 (6.3%), ディーブ18 (6.3%), ダル18 (6.3%), メディウムグレイ4.5 (6.3%), メディウムグレイ5.5 (6.3%)

②色相について

分布状況 : 4, 8, 14～20, 24

最大色相 : 18 (28.1%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライツ, ディーブ, ソフト, ダル, ダーク, ペール, ライトグレイッシュ, グレイッシュ

最大トーン: ライトグレイッシュ (25.0%)

色相は、橙、黄、青緑、青、紫、赤紫の広範囲に分布し、色相番号18はやや高い値 (28.1%) を示している。またトーンは、ライトとダークグレイッシュを除くトーンに広く分布し、全体の25.0%がライトグレイッシュである。これらの結果から、「さびしい」からイメージされる色彩については、色相は青を中心としながらもやや広範囲にわたり、トーンも広範囲に分布しているが、中でも彩度が低くやや濁った色が中心である。このイメージは、色相への依存度は見られるが、ト

ンへの依存度は低いようである。

4. 「うれしいー悲しい」 についての結果と考察

(1) 「うれしい」

①選択色彩 : ライト2 (34.4%), ビビッド8 (15.6%), ブライト6 (9.4%),
ライト4 (9.4%)

②色相について

分布状況 : 2~11, 18, 24

最大色相 : 2 (37.5%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライト, ライト, ペール

最大トーン: ライト (43.8%)

色相は、赤、橙、黄、青緑、青、赤紫の広範囲に分布し、色相番号2は高い値 (37.5%) を示している。またトーンは、ビビッド、ブライト、ライト、ペールの明清色調に分布し、全体の43.8%がライトに集中している。これらの結果から、「うれしい」からイメージされる色彩については、色相は赤から黄の暖色系、トーンは明清色調で、特にライトトーンを中心とする色である。このイメージは、色相、トーンともに依存度は高いようである。

(2) 「悲しい」

①選択色彩 : ディープ18 (18.8%), ダーク20 (9.4%), ライト18 (6.3%),
ダル18 (6.3%),

②色相について

分布状況 : 2, 12, 16~22

最大色相 : 18 (46.9%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ディープ, ライト, ソフト, ダル, ダーク, ライトグレイッシュ,
ダークグレイッシュ, メディアムグレイ

最大トーン: ディープ (21.9%)

色相は、緑、青緑、青、紫の寒色系に分布し、色相番号18は高い値 (46.9%) を示している。またトーンは、ブライト、ペール、グレイッシュを除くほぼ全てに分布し、全体の21.9%がディープであるが、著しく高い値とは言い難いようである。これらの結果から、「悲しい」からイメージされる色彩については、色相は青を中心とした寒色系の色であるが、トーンは多岐にわたっている。したがってこのイメージは、色相への依存度は高いが、トーンへの依存はほとんど見られないようである。

5. 「陽気なー陰気な」 についての結果と考察

(1) 「陽気な」

①選択色彩 : ビビッド5 (18.8%), ビビッド7 (15.6%), ビビッド6 (12.5%)

②色相について

分布状況 : 2~10

最大色相 : 5及び8 (18.8%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライト, ライト

最大トーン: ビビッド (71.9%)

色相は赤、橙、黄の暖色系を中心に分布し、色相番号5及び8はやや高い値 (18.8%) を示している。またトーンは、明清色調のビビッド、ブライト、ライトのみに分布し、全体の71.9%がビビッドに集中している。これらの結果から、「陽気な」からイメージされる色彩については、色相は橙を中心とした暖色系で、トーンはビビッド、ブライトなどの高彩度の色である。このイメージは、色相、トーンともに依存度は高いようである。

(2) 「陰気な」

①選択色彩 : ダーク22 (12.5%), グレイッシュ18 (9.4%), ダークグレイッシュ10 (9.4%)

②色相について

分布状況 : 2, 8~22

最大色相 : 18及び22 (25.0%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ディープ, ライト, ダル, ダーク, グレイッシュ,
ダークグレイッシュ, ダークグレイ

最大トーン: ダーク (31.3%)

色相は、黄、黄緑、緑、青、紫の広範囲に分布し、色相番号18及び22はやや高い値 (25.0%) を示している。またトーンもブライト、ソフト、ペール、ライトグレイッシュを除く中・低明度のトーンのほとんどに分布し、全体の31.3%がダークである。これらの結果から、「陰気な」からイメージされる色彩については、色相は寒色を中心としながらも広範囲にわたり、トーンも同様に中・低明度域のトーンを中心に広範囲にわたっている。したがってこのイメージは、色相、トーンともに依存度は極めて低いようである。

6. 「さわやかなーうっとうしい」 についての結果と考察

(1) 「さわやかな」

①選択色彩 : ペール14 (18.8%), ライト14 (15.6%), ペール16 (12.5%)

②色相について

分布状況 : 6, 7, 10~18

最大色相 : 14 (37.5%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライト, ライト, ペール, ホワイト

最大トーン: ペール (40.6%)

色相は, 黄, 黄緑, 緑, 青緑, 青に分布し, 色相番号14は高い値 (37.5%) を示している。またトーンは, 明清色調のビビッド, ブライト, ライト, ペールのみに分布し, 全体の40.6%がペールである。これらの結果から, 「さわやかな」からイメージされる色彩については, 色相は青緑を中心とした色で, トーンはペールやライトといった高明度の色である。このイメージは, 色相よりもトーンへの依存度が高いようである。

(2)「うっとうしい」

①選択色彩 : ダーク8 (9.4%), ビビッド1 (6.3%), ビビッド3 (6.3%),
ブライト24 (6.3%), ダーク2 (6.3%), ダーク24 (6.3%),
グレイッシュ2 (6.3%)

②色相について

分布状況 : 1~3, 6~10, 14, 20~24

最大色相 : 2及び24 (21.9%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライト, ディープ, ライト, ソフト, ダル, ダーク,
ライトグレイッシュ, グレイッシュ, ダークグレイッシュ,
最大トーン: ダーク (25.0%)

色相は, 暖色系がやや高いようであるが, ほぼ全範囲に分布し, 色相番号2及び24は高い値 (21.9%) を示している。またトーンは, ペールを除く全てに分布し, 全体の25.0%がダークである。これらの結果から, 「うっとうしい」からイメージされる色彩については, 色相は赤や赤紫を中心としながらも広範囲にわたり, トーンも同様に広範囲にわたっている。したがってこのイメージは, 色相, トーンともに依存度は低いようである。

7. 「心地よいー不愉快な」についての結果と考察

(1)「心地よい」

①選択色彩 : ライト6 (15.6%), ペール16 (9.4%), ペール4 (6.3%),
ペール8 (6.3%), ペール12 (6.3%), ペール24 (6.3%),

②色相について

分布状況 : 2~16, 22~24

最大色相 : 6 (21.9%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライト, ライト, ソフト, ペール, ホワイト, ライトグレイ,
ブラック

最大トーン: ペール (46.9%)

色相は, 青を除く全色相に分布し, 色相番号6は高い値 (21.9%) を示している。またトーンは, 明清色調のビビッド, ブライト, ライト, ペール及びソフトに分布し, 全体の46.9%がペールに集中している。これらの結果から, 「心地よい」からイメージされる色彩については, 色相はほぼ全範囲にわたる色であるが, トーンは明清色調の色が中心である。このイメージは, 色相への依存は見られないが, トーンへの依存度は高いようである。

(2)「不愉快な」

①選択色彩 : ビビッド22 (6.3%), ダル18 (6.3%), ダル24 (6.3%),
ダーク24 (6.3%), グレイッシュ18 (%)

②色相について

分布状況 : 1~10, 16~24

最大色相 : 22及び24 (18.8%)

③トーンについて

分布状況 : ビビッド, ブライト, ディープ, ライト, ソフト, ダル, ダーク,
ライトグレイッシュ, グレイッシュ

最大トーン: ダル (18.8%)

色相は, 緑を除くほぼ全色相に分布し, 色相番号22及び24はやや高い値 (18.8%) を示している。またトーンも, ペールとダークグレイッシュを除く全てに分布し, 全体の18.8%がダルである。これらの結果から, 「不愉快な」からイメージされる色彩については, 色相はほぼ全範囲にわたる色であり, トーンはダルやグレイッシュなどの中明度・低彩度の色が中心ではあるが広範囲にわたっている。したがってこのイメージは, 色相, トーンともに依存度は低いようである。

8. おわりに

情緒イメージの中の「楽しいーさびしい」, 「うれしいー悲しい」, 「陽気なー陰気な」, 「さわやかなーうっとうしい」, 「心地よいー不愉快な」の5つのイメージ対について, 各イメージで選択される色彩の傾向を調査した結果, 色相やトーンへの依存に関して次のような点が明らかになった。

(1)「楽しいーさびしい」

「楽しい」は, 色相及びトーンに依存し, 特に色相への依存度が高い。「さびしい」は, 色相への依存は見られるもののトーンへの依存は低い。

(2)「うれしいー悲しい」

「うれしい」は, 色相, トーンともに依存度は高い。「悲しい」は色相への依存度は高いがトーン

への依存はほとんど見られない。

(3) 「陽気な-陰気な」

「陽気な」は、色相、トーンともに依存度は高い。「陰気な」は、色相、トーンともに依存度は極めて低い。

(4) 「さわやかな-うっとうしい」

「さわやかな」は、色相への依存も見られるが、トーンへの依存度の方が高い。一方「うっとうしい」は、色相、トーンともに依存度は低い。

(5) 「心地よい-不愉快な」

「心地よい」は、色相への依存は見られず、トーンへの依存度が高い。一方「不愉快な」は、色相、トーンともに依存度は低い。

前稿での色彩認知イメージの場合は、イメージ対における各イメージの色相、トーンへの依存度には共通性が見られた。しかし、情緒イメージの場合は、そのような傾向はほとんど見られないようである。また全般的に情緒イメージは、色彩認知イメージに比べ、各個人の色彩嗜好に左右される割合が高い、ということが一連の考察を通して明らかになった。

本稿は、情緒イメージについて選択される色彩に関する調査結果である。それぞれのイメージごとに、選択される色彩の傾向や色相、トーンへの依存の状況を明らかにすることができた。今後は、前稿や本稿での考察結果をもとに、造形表現における色彩イメージの効果的な活用方法について考察を深めていきたいと考えている。

参考文献

- 岡部慶三監修，社団法人日本流行色協会編，『色のイメージ事典』，(株)同朋舎出版，1991
財団法人日本色彩研究所監修，『カラー&ライフ』，日本色研事業株式会社，2004